

特別委員会報告

■競馬事業調査特別委員会

競馬事業調査特別委員会は、議会閉会中の8月17日及び今期定例会中の9月14日に委員会を開催しました。

委員会には、市長、副市長及び担当職員のほか、県競馬組合から常勤副管理者など担当職員の出席を求め、質疑を中心に岩手競馬の現状について調査いたしました。

8月17日の委員会では、競馬事業の収支状況や収入減少に伴うコストの削減の状況について、また、



熱心に議論する競馬事業調査特別委員会

9月14日の委員会では、岩手県競馬組合事業運営監視委員会が作成した「岩手県競馬組合の経営悪化及び累積債務の拡大についての検証に関する報告書」による今後の市としての考え方、最近全国的に蔓延している馬インフルエンザの岩手での状況とその影響、「岩手競馬ルネッサンスプラン」の実施状況などについて調査いたしました。

岩手競馬も前半が終了し、馬インフルエンザの影響などにより、直近での売り上げが計画に比べ95・8%になるなど、計画の見直しをしてもなお、更なるコスト削減など見直しが必要とされている状況にあります。競馬組合も売り上げ増収策として「岩手競馬ルネッサンスプラン」を実施するなど、関係者の努力は認められるものの、売上げが思うように伸びないことから、岩手競馬を取り巻く状況がまだまだ予断を許さない状況であります。

以上のように、今後も岩手県競馬組合の経営状況などをさらに調査する必要があることから、議会閉会中も調査することを確認しました。

■北上川治水対策特別委員会

北上川治水対策特別委員会は、今期議会中の9月18日及び21日に開催し、請願の審査を行いました。又、8日には、奥州市を直撃した台風9号の被災状況調査を実施し、前沢・衣川・姉体・黒石地区等の甚大な被害の確認をいたしました。さらに、17日の大雨により発生した、市内各所の水害の被災地調査を行いました。

これは議会休会による議員全員で行い、特に甚大と思われる被災地の調査を行いました。まず、水沢区姉体地区の吹張堤防の漏水状況及び88世帯の避難勧告のあった同区黒石地区の集落や主要地方道等の冠水状況を調査し、続いてその下流に位置する水害常襲地帯である前沢区赤生津の無堤地区と世界遺産登録を目指す白鳥館遺跡付近から一関遊水地衣川堤防までの一帯の大規模な冠水状況調査を行いました。これらの被害状況を目的の当たりにし、水害の市民に与える影響と治水対策の重要性、必要性をあらためて認識いたしました。北上川の治水対策については、引き続き各地区の現状調査のほか、関係団体からの要望事項も



台風9号により冠水した赤生津地区の水田（前沢区）

含め治水対策への方針調査を行い、関係者間の共通認識を高めることが重要であり、市全体として治水対策の総合的などとりまとめを進める必要があります。

今回、前沢区赤生津堤防の早期築堤整備とともに両岸一体となった整備の意見書の提出、全会一致で決した意義は大きい。ますますの要請要望活動に対し適時適切な判断いたし市民附託に答えなければならぬことを確認しました。

